

第門	船艦之部第	困難船漂流民救助	米國郵船アメリカ號横濱港ニ於テ燒失ノ件	目錄	第壹號	○神奈川縣へ米郵船アメリカ號燒失ニ就テハ相當ニ救助シ猶見込ノ虞アラバ速ニ申議アルヘキ旨ノ往東 明治五年七月廿二日	外務省	第貳號	○同縣権令ヨリ同斷ノ節救助セシ旨同郵船會社ノ謝書寫ヲ添へ具申ノ来東 同五年七月廿六日	附屬	○千八百七十一年八月廿八日付米郵船會社社長ノ謝書寫二通	参考	○米郵船アメリカ號燒失ノ節同社雇夫永更津
----	-------	----------	---------------------	----	-----	---	-----	-----	---	----	-----------------------------	----	----------------------

縣民平野岩吉洋銀竊盜ノ罪ヲ以テ繫獄中同
社ヨリ赦免ノ儀請求セラル旨云々木更津縣ノ
申稟

○右事件ニ就テ木更津神奈川兩縣往復書寫四
通

○千八百七十三年二月廿二日付米郵船會社代
ヨリ木更津縣管獄士官宛ノ請求書記文

○右事件本省ニテ處分スルノ理ヲキリ述ヘ回
答ノ文案ヲ示シ處分方同縣ヘノ指令書

外務省

しるし

しるし

寫濟

人

陽張

并理

市多川

多智有

校入

市多川

市多川

市多川

市多川

市多川

市多川

外務省

市多川

覽物

哭

十月廿六

寫

○ 第千四百四十九号

仁

議

和

一覽物

左邊より右邊港に泊るゝ氣力アリカ
船より出火し年々船中より船中より
り出火し年々船中より船中より
社より出火し年々船中より船中より

事

神奈川縣

副島外務部

三百九十九号

神奈川縣

明治

太平洋郵船會社ニテ

天百七十二年八月廿日横濱

本月初三日夜甚寒氣アリ火

災之節祝開其地より貴下之

人氏ニ慈信止助カサヒ與テ段

事會社一統ニテテ達テ拜謝

長共外ニ拜シ尽カ相成

神奈川縣

不勝感謝候儀

シ井ラ一

神奈川縣令

大江山

高
濟

於左平海船會社の分年事八月より横濱
後船會社の焼失の甚氣アメリカ島が歐羅巴人三人
あが人機客を乗船の日中四り船中船が欧羅巴人
三人あが人機客の死骸を見あふた船の死骸もあ
警備の上で乗客の死骸を見あふた船の死骸もあ
より船中船の死骸を見あふた船の死骸もあ

じ
井
ラ
ー
ン

神奈川合名会社

神奈川縣

0175

3-2225

海防

海防

海防

辦事局

太平海郵船會社書翰三儀
申上書

當縣管下上總國周准郡富津
村平野岩吉儀去壬申七月廿二日
夜朱利堅郵船燒失之節洋銀
盜取候儀之件及捕縛不更津
裁判所之於之糾彈中繫獄之者
二候家同村齋藤八次郎儀橫濱
港に滞泊之砌本年二月廿四日
朱利堅太平海郵船會社より
當縣管獄士官宛書狀一封被
相頼候趣之而村役人より書狀差
出候得共右者夫之順序より歷當
縣二相違候様違方之儀別紙に
通神奈川縣工及懸合候家石
書翰、當縣宛より先方より候

木更津縣

馬濟
馬濟
馬濟

辦事局

光緒十四年四月廿四日到奉

辦事錄

平野君云、似今年、
我犯事の家、
彼と違、
我裁判得、
素意、

盜取候儀、
裁判所、
二候、
港に滞泊、
米利堅太平海郵船會社、
當縣管獄士官宛書狀一封被、
相頼候趣、
出候得共右者夫、
縣二相違候様違方、
通神奈川縣、
書翰、

木更津縣

及捕縛不更津
糾彈中整獄者
郎儀横濱
砌本年二月廿四日
船會社より
狀一封被
書狀差
順序、
儀別紙、
及懸合候處石
方、
候

義ノ難至者、而別紙答書差
越候、付一應致披見候處、石書
翰大意ハ、前書若吉罪科宥免
云々、儀ト存候石之通、候々同
人罪科之儀ハ、難差免筋、付其
段申達有之度旨、再及懸合候處
猶又別紙之通譯書相添申、越候
然當當縣之儀ハ、不聞落場、付

木更津縣

和外國人、應答致候筋、無之
儀ト存候間、此上貴省、於テ宜敷
所取計被下度依之別紙神奈
川縣往復文四通譯文、寫一通
相添此段申上候以上

明治六年四月書

木更津縣參事國司僊吉

木更津縣
參事
國司
僊吉
印

木更津縣權令紫原和

外務少輔上野景範殿

木更津縣

3-2225

0179

寫濟

寫濟

當縣管下上總國周准郡富沃
村齋藤八治郎又漁業之都合
之寄り西管下横濱港之滯泊
之砌二月二十四日朱利堅四番長
屋小使之者より別封を通富沃
材平野老吉方と相届り夫の村
役人より木更津縣に差出せし據
之相親類を返るる村役人より別

木更津縣

封當縣に差出せし物之據原
書より以認かりしに碓と解と並
し得る今より公判書より案より
若公用書より案より又順序より
當縣に相違する方より案より此際依
親書別封より碓と解と並し可然
以所斗有るに及也

明治三年三月廿日

木更津縣奉行國司僉言

神奈川縣推令大江舟殿

追々本文平野名吉儀壬申七月
中横濱沖之船ヲ朱利堅船燒
失之其洋金盜而長之有當時
當縣之船ヲ入牢監之在也如殿
中係也

木更津縣

0181

3-2225

寫

齊

河治下上總國富津村齊藤八
治郎景漢素之者之者港下出
張中別封未利堅四番山使之者
八局方之相托長之月田村平堅
若吉方之村治人ノ以之山麓差出
之者之者之者之者之者之者
書之者之者之者之者之者之者

木更津縣

上八書ハ木更津縣守倉士官ト
有之今之入牢人ト差違ハ長
多トトトトトトトトトトト
書之者之者之者之者之者之者
之者之者之者之者之者之者
而利堅四番之者之者之者之者
之人物之者之者之者之者之者
村之者之者之者之者之者之者

[illegible]

本史津梁文事國司僊公教

木更津縣

寫齊

寫齊

橫濱港在為米利堅太平海郵
船會社より多縣宰屋士官一宛
差越多書翰之價有先般及
所懸合多如四合之懸取必知
其右書翰披見多蒙洋文之
了解致無多誤其大意ハ平野
表吉後橫濱之於北罪有之者
縣之於入字之起聞及之蒙此

木更津縣

者ハ年系懸親之者有之善
良之者ト存之信用致在之者
可相成候之者ト出年為政度
云々之食ト存之者ト通之者ト
若吉罪科之儀ハ難免先節
其其段太平海郵船會社ハ
中中達有之儀也尤横文之儀
多縣ハ譯官要之者有之

解遠くも有るなりとて教
更に文を以て四書越有る度
石書編相傳は既更なる由
也

明治二十三年三月廿日 木更津縣奉事國司仙吉

神奈川縣令奉事

四年

木更津縣



當港居米國太平洋郵船會社
より西縣田獄官員一紙差出書
簡之矣云々西問合有之也自及回
答之知右書翰洋文之市所了解
相成無甚得共大意之平野若吉
横濱之於之在罪云々自其通り
より其誤否同社之省縣に報知
之梯兩掛合之趣致承知之然也

木更津縣

此一件之西縣志官勅之家三月
矣張公以縣志之難相成其方可
然卜存者依之石書翰詎官之
一閱其政之如中越之志其後
無之其得者尚別紙之通翻譯
者波上官以回中其就而西社
之西報即其初文之而西進相成
其而七可然其得者洋文以入

しむるに以て是書史に以て調之上
差越有るに非ず當縣に以て洋文
相割りて可申上依るに差越
之書簡通却以て報方此版申入
也

明治二年四月 神奈川縣書庫在石田英吉

本更津縣參事國司遷吉殿

本更津縣

寫濟

寫濟

太平海郵船會社ニ於テ

明治三十二年二月廿日横濱

本更津縣管獄士官ニ呈ス

拙者等召使ス者ノ内ヒラム被告

ト申者係當横濱ニありテ鑑誤

有リテ一以テ今ニ貴下ニ牢獄

中ニ禁錮有リト題傳聞ニ及リ

然レ度此者美益而善良ニ

本更津縣

從順ルル召使ス者ニ拙者方ノ凡

一ノ年程相勤罷去リ事更ニ犯

罪可致者トモ無シトモ何卒格

別ニ訴フ以テ寛典ニ由所望ト

成下同人此差免レ上再ニ拙者

方ニ召使ス相叶中間敷也此

段相款也謹言

太平海郵船會社代

